

平成 19 年 8 月 9 日

各位

会社名 株式会社 平 和  
代表者名 代表取締役社長 石橋 保彦  
(コード番号 6412 東証第一部)  
問合せ先 経営企画室長 坂本 浩之  
(TEL 03 - 3835 - 7371)

## 株式会社オリンピアの完全子会社化に伴う 会計処理及び連結業績予想修正に関するお知らせ

当社と株式会社オリンピア（以下、「オリンピア」といいます。）は、平成 19 年 8 月 1 日を効力発生日として、当社を完全親会社、オリンピアを完全子会社とする株式交換（以下、「本株式交換」といいます。）を実施いたしました。本株式交換に関する会計処理が確定いたしましたので、下記のとおり、お知らせいたします。また会計処理確定に伴い、当社の中間期の連結業績予想に修正がございましたので、あわせてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 会計処理について

##### (1) 会計処理の概要

本株式交換は、当社を完全親会社、オリンピアを完全子会社とする組織再編を行うものですが、企業結合会計基準上は逆取得に該当することになり、連結財務諸表上、オリンピアが当社を取得したのものとしてパーチェス法が適用されることとなります。

その結果、当社の連結財務諸表上、現時点では以下の通り負ののれんが生じることが見込まれており、定額法により、営業外収益として每期均等償却される予定です。

負ののれん総額 500 億円（概算）  
償却年数 5 年（予定）

なお、本株式交換は当中間期末に取得が行われたものとみなして会計処理される予定であるため、最終的な負ののれんの金額は、みなし取得日である平成 19 年 9 月 30 日時点の当社の連結時価純資産に基づき算定されることとなります。

##### (2) 当中間期及び通期の連結財務諸表における取り扱い

###### ① 連結損益計算書における取り扱い

本株式交換が逆取得に該当する結果、当社の当中間期及び通期の連結損益計算書の取り扱いは以下の通りとなります。

- ・当中間期 オリンピアの上半期（平成 19 年 4 月 1 日から平成 19 年 9 月 30 日）の連結損益計算書計上額が当社の連結損益計算書の基準とな

ります。

- ・通期 オリンピアの通期(平成19年4月1日から平成20年3月31日)の連結損益計算書計上額に、当社の下半期(平成19年10月1日から平成20年3月31日)の連結損益計算書を連結した金額が、当社の連結損益計算書の基準となります。

② 連結貸借対照表における取り扱い

オリンピアの連結貸借対照表が当社の連結貸借対照表の基準となります。

③ 個別財務諸表における取り扱い

当社の個別財務諸表の取り扱いについては、従来からの変更はございません。

2. 当社の中間期の連結業績予想について

当社単体の現時点における業績予想は、各種公表資料からの変更は特段ございません。ただし、当社の連結財務諸表は前述の通りオリンピアの連結財務諸表を基準として作成することが確定したため、平成19年3月期決算短信公表時に当社が公表した連結業績予想と、今後の当社の連結業績との間には、連続性がなくなることとなります。

これらの会計基準適用による影響を踏まえ、当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日)の連結業績予想を以下のとおり修正いたします。

中間期の連結業績予想の修正(平成19年4月1日から平成19年9月30日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	中間期純利益 (百万円)	1株当たり 中間期純利益 (円)
今回修正予想	19,590	250	440	110	0.77
(ご参考) 前回発表予想	38,060	△480	△1,580	△1,650	△14.42

(注1) 前期実績、増減額及び増減率の記載については、比較可能性に乏しいため、省略しております。

(注2) 負ののれん償却は本年下半期より開始されるため、中間連結業績へ与える影響はありません。

なお、本株式交換に伴う影響を加味した平成20年3月期(平成19年4月1日から平成20年3月31日)の通期連結業績予想については、シナジー効果の検証等も含め現在鋭意精査中でございますが、現時点ではまだ確定しておりません。負ののれんの金額及び償却年数が正式に確定する本年中間決算発表を目処に改めてお伝えする予定です。

以 上